

『うまいダッツ』 坂木 司／著 文藝春秋



とある高校の喫茶部。それぞれ好みのおやつを持ち寄る4人は、「うまい棒1本で、世界の秘密がわかるらしい」という不思議な噂を耳にして…。

『わたしがここにいる理由』

片川 優子／作 岩崎書店



璃瑚、一輝、彩加里の三人は同じ団地に暮らす幼なじみ。でも中学生になってからその関係に距離ができて…。壁にぶつかり、へこんで落ちて、たどりつく場所は？

『カフェ・スノードーム』

石井 睦美／文 アリス館

カフェ・スノードームは、ふだんは目に留まらないけれど、この場所を必要とする人には見つけることができるお店だ。店主・タマルさんの淹れるお茶を飲むと、不思議なことが起こって…。



『ありえないほどうるさいオルゴール店』

瀧羽 麻子／著 幻冬舎

そのオルゴール店では、風変わりな主人が、“お客様の心に流れる曲”をオルゴールに仕立ててくれる。耳の聞こえない少年の心には、どんな音楽が流れているのだろうか…。

【シリーズ2冊】



『名探偵再び』

潮谷 駿／著 講談社



私立雷辺女学園に入学した時夜翔には、学園の名探偵だった大叔母がいた。大叔母の活躍により悪意が去った学園に入学し、このままちやほやされて学園生活を送れると目論んでいた翔の元へ、事件解明の依頼が舞い込み…。

『怪談』

小泉 八雲／作 KTC 中央出版



小泉八雲が日本各地のこわくて不思議な話を妻のセツから聞いて綴った、こわくておもしろくてうつくしい「怪談」を新訳。「雪女」「むじな」「耳なし芳一」など全10篇。

『小説となりのトトロ』

久保 つぎこ／文 徳間書店



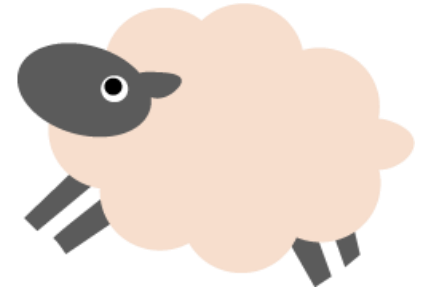
昭和30年代の東京郊外。小学生のサツキと4歳のメイは、大きなクスノキのある森のそばにたつ古い家に引っ越してきた。そこで、古くからこの日本に住んでいるトトロに出会い…。

2025年 冬休み号 Part.6 I

とっておきの一冊を見つけよう

7～9年生向け

王寺町立図書館



『ポッドキャストで伝えて』 宮下 恵菜／著 講談社



好きな人がいないのって、ヘン？ 彼氏だったらがまんしないといけないの？ 恋愛や見た目など悩みを抱える4人の中学生が、中学生のアイが配信するポッドキャストに背中をおされ、一歩踏み出す短編集。



『業平センパイの読書会』

花形 みつる／作 偕成社



ムダに美形と評判の業平センパイ。古典研究部の部員集めのため、読書会を企画したものの、予想外の展開に…。現代の高校生が「虫めづる姫君」などで知られる「堤中納言物語」のナゾとたくらみを読みとく。



『ナカスイ!』

村崎 なぎこ／著 祥伝社



栃木県那珂川水産高等学校(通称ナカスイ)は、内陸県にある日本唯一の水産高校。“脱普通”をもくろむ鈴木さくら、ナカスイに入学するが、マニアックすぎる授業、キャラ爆発の同級生に、夢ふくらませた青春が大ピンチ!?

【全3巻】



令和8年(2026年)は昭和元年(1926年)から満100年…。
100年前ってどんな時代？昭和～令和の変化を比べてみよう！

王寺町も2026年2月11日に
町制100周年を迎えるよ！



『昭和のくらしがわかる事典』

早川 典子/監修 PHP研究所



暮らしや科学技術が大発展し、新しい生活のかたちが生まれた昭和時代。その暮らしは、いまとどう違うのでしょうか。家庭から学校・遊びまでを、写真とイラストで紹介します。

『消えゆくくらしのモノ事典』

岩崎書店編集部/編著 岩崎書店

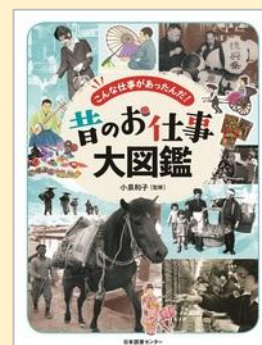
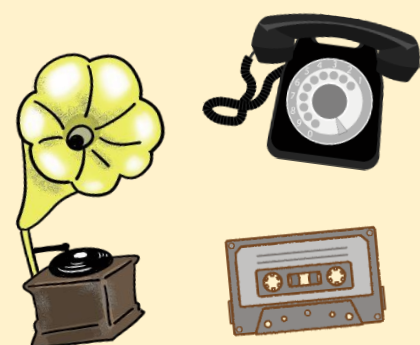


黒電話、青焼き、二槽式洗濯機…。昭和～平成時代には活躍していたのに、最近ではあまり見かけなくなったモノを、写真を交えて紹介。つかい方/しくみ、消えゆく理由も説明する。

『昭和100年地図帳』 平凡社/編 平凡社



昭和元年当時を表す都道府県図と令和7年の都道府県図を掲載し、統計データや年表とともに、都道府県の100年の変化を振り返る。



『昔のお仕事大図鑑』

小泉 和子/監修 日本図書センター

和傘職人、駄菓子屋、蒸気機関士、電話交換手、炭坑夫…。明治・大正時代から昭和時代にかけてさかんだった87の仕事を、写真やイラストとともに紹介する。



『ポプラディアプラス日本の歴史 3

明治時代～現代』 ポプラ社

日本の歴史を学べる学習資料。明治時代～現代を時代別の6つの章に分け、時代のあらまし、同時代の世界のできごと、その時代に起こったできごとなどを豊富な図版とともに解説する。

タイトルに100年がつく小説



『百年文通』 伴名 練/著 早川書房



女子中学生のこぐしちるは、引き出しに入れた物が百年前に送られる不思議な机を発見する。机を通じて手紙を送ってきた大正時代の少女と文通をすることになるが…。

『百年厨房』 村崎 なぎこ/著 小学館



宇都宮の旧家に独り住む大輔。ある日アヤという若い女が現れ、大正時代にここで働いていたと言う。友人は「タイムスリップだ！」と騒ぐが、大輔は信じない。だが、アヤが作った冷やしコーヒーは…。



『百年後、ぼくらはここにいないけど』

長江 優子/著 講談社

町は長い時をかけて人々が作りあげたジオラマ。中学生の健吾たちは地理歴史部(チレキ)で人々の思いに向きあい、百年前の渋谷のジオラマを作っていく。部活系青春小説。



『100年のレシピ』 友井 羊/著 双葉社

著名な料理研究家・大河弘子が設立した料理学校に通う理央は、弘子の曾孫・翔吾と出会い…。100歳で亡くなった料理研究家の人生を各年代の時代背景とともに描いた連作ミステリー。

